



親不知ってなぜ抜くの？



「早く抜いたほうがいいですよ」と言われていても自覚症状がなかったり、症状があっても一時的だったりして「本当に抜かなくちゃならないのかなぁ?」「なんで抜かなくちゃならないのかなぁ?」とつい疑問だらけになりがちなのが親知らずの抜歯。でも「痛いし怖いし忙しいし・・・」なんてつい先延ばしにしていると大事な隣の歯まで失ってしまう事もあるんです!

親知らずとは？

一番最後に生えてくる奥歯で、知歯とも呼ばれます。標準的には18~20歳のころに生え、本来よく噛んで食べるときに役立つはずの存在でした。



抜いても大丈夫なのはなぜ？

私たちの親知らずは、やわらかくなった現代の食生活に合わせて、すでに役割を終えつつあると考えられています。先天的にまったく生えない人も増えていますが、親知らずがないために不自由しているという人はまずいないでしょう。すでに生えそろうている永久歯を、後から生えてきた親知らずが傷めてしまう場合、親知らずを抜き、重要な役割を果たしているほかの永久歯を大切に守ることになります。正常に生えて、上下がきちんとかみ合っている親知らずならば、抜く必要は全くありません。

こうなる前に抜きましょう！

一生使いたい第二大臼歯を最悪の場合失ってしまう事も・・・。
手遅れにならないうちに抜いて被害を防いでいきましょう！

代表的なトラブルその1

【隣の歯が虫歯に！】
歯茎の下にできた虫歯の治療は技術的に難しく大がかりになりがちです。

代表的なトラブルその2

【歯を支える骨を失った！】
炎症のために歯を支える骨が溶け、支えを失った隣の歯がグラグラに！

代表的なトラブルその3

【歯並びや噛み合わせが悪化！】
親知らずに押された歯が倒れ矯正治療が必要に！

親知らずの抜歯を患者さんが指摘されるのは、ほとんどの場合。親知らずが主訴で受診した時ではなく、定期検診などの際に発見される場合が多いと思います。寝耳に水の患者さんが「なぜ抜く必要があるのか」となりがちなものも無理はないのです。そこで親知らずの抜歯を受ける際は、「なぜ痛くもかゆくもないのに早く抜くべきなのか」について、納得のいくまでしっかりと説明を受けましょう。